

みらいカフェ



たごふり #3



みらいカフェ  
たより #3

002 はじめに

ハーブ農園ベザン代表・澤邊友彦インタビュー

004 ハーブと育てる新しい「みらい」

007 まるびいの小さな畑から

まるびいを探検しよう!1

008 まるびい百景

まるびいを探検しよう!2

010 まるびい夕刻リサーチ

活動紹介

012 みらいカフェメンバーが  
来館者たちと過ごした時間

現代美術家・眞壁陸二インタビュー

024 金沢から広げるアートの未来

「哲学カフェ」で考えてみた

030 みらいカフェってどんなところ?



「まるびい みらいカフェ」は  
まるびい(金沢21世紀美術館の愛称)と金沢の街の  
より良い「未来」について考える人々が集まる、  
場所や活動の総称です。

# CONTENTS

## INTRODUCTION

### はじめに

金沢21世紀美術館(愛称:まるびい)が豊かな場所であるのは、美術館をおもしろがってくれる人や自分の場所として大切にしてくれる人がいるからです。そのため「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」をテーマにまるびいは様々な形で地域の方々の「自分の場所」となる活動を開いています。作品を深く鑑賞する体験、今までとは違う自分の発見、他の人との関わりと学びなどその人次第でまるびいは多彩な場となります。その鮮やかな経験は人から人へと波紋のように広がり、まちをも豊かにしていくでしょう。

「まるびいみらいカフェ」はまるびいを起点にワクワクする未来を語り、それを自分たちで「つくる」場です。あらかじめ決められた役割や仕事があるわけではありません。なにかと真剣に向き合う時間も、居心地の良い空間も、人と人との気持ちのよい関係性も、自ら作ることができるものです。この「みらいカフェだより#3」ではまるびいに集うメンバーが街や美術館を知り、自ら考え、どのような場を「つかった」のかを紹介します。まちの中心にあり、様々な価値観を提示する作品のある場所だからこそ生まれる、ワクワクやドキドキ。このたよりを手に取ったあなたと、次の「みらい」を芽吹かせることができたら嬉しいです。(森絵里花)



ハーブ農園ペザン代表・  
澤邊友彦インタビュー

## ハーブと育てる 新しい「みらい」

金沢21世紀美術館の敷地には、  
まるびいみらいカフェの  
始まりとともに誕生した小さな畑、  
「まるびいみらい畑」があります。  
2017年春、みらいカフェメンバーとの  
ご縁でハーブの苗を提供してくださったのが、  
河北潟から自然栽培のハーブ文化を  
発信している「ハーブ農園ペザン」でした。  
今回は、ハーブ農園ペザンを  
運営している株式会社ポタジェの  
代表取締役社長、澤邊友彦さんに  
インタビューしました。

聞き手:大辻尚美/小川裕生/齊田かおり  
編集:小川裕生 | 写真:齊田かおり

# INTERVIEW1

## 会社を立ち上げようとした きっかけ

ペザンに来るまでは愛知県で一般的な農業をしていたんですが、ちょっとしたきっかけで石川に戻ってくることになって、ペザンには3年くらい前に入りました。この業界に入って農業の面白さを感じる一方で、それまでは人と触れ合う機会を自身で作るようになってきたので、独り畑にぼつんとやっているのも違うんじゃないかと。野菜を作っているのも、これは誰のためにやっていることなんだろうとずっと思っていました。それで一昨年の4月、うちの農園と福祉事業所とで連携を始めて、人と触れ合いながらやっていける農業に手応えを感じました。今までの自分の取り組みが一本の線としてつながったような気がしたんです。それがきっかけだったのかもしれませんが。新しい方向性に進むことと、ペザンを作った前代表から引き継ぐ時期が重なって、ポタジェという会社組織を作って、ペザンを運営することにしたんです。

## 澤邊さんにとってのハーブ

僕の定義では、「植物」と書いて「ハーブ」と読みます。極端な話、僕らが触ったものは全部ハーブになる(と言ってもいい)。ハーブの良いところは、食べることに限らず、病気のケアにも、ガーデニングにも、アートのにも、いろんな用途があることです。だから野菜であっても、「食べる」以外の視点を持った瞬間にそれはハーブになります。例えば、レンコンって食べ物じゃないですか。そのレンコンのハスの花を飾りに使ったり、リース作りに使うのが僕らのやり方で、そうした瞬間、レンコンはハーブになります。

ハーブって日本語では日本人が分かりやすいように「香草・薬草」と訳したりしますが、元々のラテン語では単純に「草」っていう意味なんですよね。なので、「ハーブ＝薬草」という固定観念を変えて、僕らは違う使い方をしています。いろんな意味付けをできる草が僕にとっての「ハーブ」です。そう考えると、ハーブって魔法みたいな言葉ですよね。

## 固定観念を壊す

僕は固定観念が一番の悪で、それをどう壊すかが大事だと思っているんです。例えば、本屋に行っても、つい自分の気になることの本が目が行くじゃないですか。そうではなくて、自分の関心とは全く違う、誰かが選んだ本を手取ることを意図的にします。つい自分が好きというだけで選んでしまう、ということになるべくなくすようにしています。仕事も同じで、固定観念があると、相手の気持ちからなくなっていくんです。僕の想いだけでやっても自己満足で終わりがねないですよ。大事なのは自分と関わる仕事仲間やお客さんとの関係性なので、なるべく広い視点で見られるようにしています。細分化していくのではなく、大きく、大きく。こういう美術館(金沢21世紀美術館)のような「分からないもの」がたくさんあるところにくるのも、考えをリセットできていいと思います。例えば展覧会でも、最初に一通り全体を見るんです。最後に気になったところをもっ



左右図——メンバーがハーブ農園ペザンを訪れるとハーブティーでもてなしてくれました

## まるびいの 小さな畑から

「自分たちの手で作り、見守り育てる場」の象徴、まるびいみらい畑。  
水やりや手入れをしていると、通りがかった方と自然とお話が始まることもしばしば。今年も春夏秋冬、様々な表情を見せてくれました。



「まるびいみらい畑の成長を来館者とともに見守りたい」とインスタグラムのハッシュタグを考え、みらい畑の看板に載せました。

#まるびいみらい畑  
#mirai\_hatake\_21  
をチェック!

- 1.ちゃんと芽がでますように
- 2.朝日に輝く朝顔とともに
- 3.綿の実がはじけ、藍の種がこぼれる季節
- 4.寒い冬を乗り越えるパンジーたち



1



2



3



4

「一回見て「なんで気になったんだろう？」って考える。そうやってなるべく自分の固定観念を取り払うことを意識していますね。毎日新しい世界を見たいんですよ。」

**澤邊さんが考える北陸の「みらい」**

.....

優雅な北陸にしたいですよね。せっかく四季が豊かな地域ですから。雪がひどい時期は無理に外で作業をするのではなく、家のなかでゆっくりしたり冬を楽しむとか。僕は職を二、三個持って季節で変えるくらいの働き方が北陸らしくていいんじゃないかと思えます。それなりに食べていけるのが北陸だと思うんですよ。親戚をたどれば誰か家庭菜園をやっている人がいたりするので、食べ物に分けてもらうとか。そういう付き合いを上手にしておきながら、自分の仕事を一個ずつ増やしてみる。キャリアアップよりも、キャリアスライドのイメージです。それぞれで起きたことが重なりあって違う共振が生まれていく。僕はそういうのが素敵だと思いますね。



### 澤邊友彦 | Tomohiko Sawabe

.....

1987年石川県生まれ。  
2017年に株式会社ポタジェを設立。  
学生時代のバックパッカーの経験を通して、東南アジアで貧困や差別などの社会問題を目の当たりにし、世界中どこでもできる農業に解決の糸口を模索中。



# まるびい百景

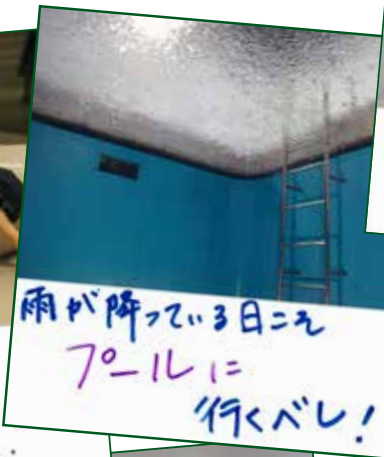
みらいカフェメンバーが美術館で発見した「ちょっと素敵な過ごし方」を紹介します。「まるびい百景」は金沢の街を観察・調査した「パブリックライフ学in金沢」(日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念展「日々の生活—気づきのしるし」内で展示)に着想を得て考案されました。暮らしやすい街づくりのため、公共空間での人々の過ごし方に着目した展示を見ると、まるびいの様々な過ごし方が見えてきました。



まるびいで満月○  
を見る お月見する



まるびいで..  
打合せもできる!



雨が降っている日は  
ポールに  
行くべし!



サポースタッフ室で  
ホラントア活脚中  
誰せもホラント登録で338



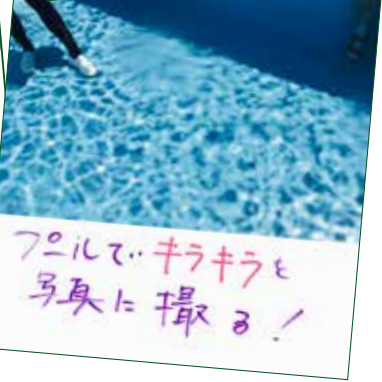
豆藪椅子で  
語り合う



館内案内で実習中  
車椅子の使い方を  
勉強中



二の椅子何人座れる  
か? チャレンジして  
みる?



ポールでキラキラと  
写真に撮る!

# まるびいを 探検しよう!

美術館によく足を運ぶ、みらいカフェメンバー。「美術館でこんな発見があった!」「楽しさを他の人と分かち合いたい」という思いから生まれた活動から「まるびい百景」と「まるびい夕刻リサーチ」を紹介します。



成長を見守ります  
大きな-れもあ



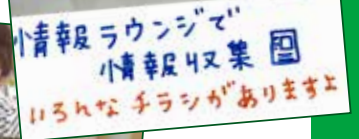
まるびいで笑う!  
笑顔になる!



次はどの  
行こうかな



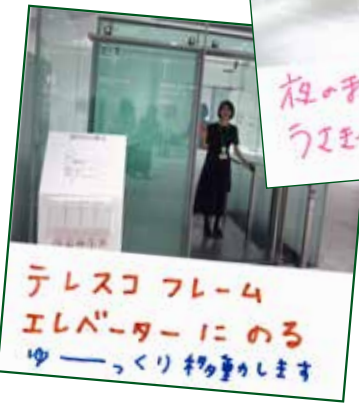
みらいカフェだよりを  
読む! #0 #1 #2  
あまよ



情報ラウンジで  
情報4又集  
いろいろチラシがありますよ



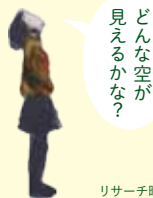
柱の手すり、手すり  
うすも椅子もたけり放題



テレスコフレ-4  
エレベーターにのる  
ゆーっくり移動がします

LET'S GO  
EXPLORING!

## どんなことを見つけた?



リサーチ時イメージ

紹介フレーズ  
地球の空に金沢



pic.2

紹介フレーズ  
光の0地点、  
限りなく  
黒に近いブルー

### カプーアの部屋を観察して気づいたこと

- ・黒い穴に対する角度で形が違って見える
- ・無重力的
- ・都会的
- ・逆パワースポット(吸い込まれそう)
- ・黒い穴はどうやって作られる? 何色?
- ・黒い穴からジェットコースターが出てきそう

2

### タレルの部屋を観察して気づいたこと

- ・明るいのに暗い感じ
- ・素材が石でつめたいはずなのにあたたかみがある
- ・圧迫感が出そうなつくりの部屋なのに、空があることで開放感が生まれるのが不思議
- ・まるで枱形門みたい
- ・味に例えるなら…さっぱりレモンを浮かべた水

1



pic.3

紹介フレーズ  
和んで揺れる  
PLAY空間

### マイケル・リンの壁を観察して気づいたこと

- ・和の色や柄で描かれた花だけでなく、洋風っぽくも南国っぽくも感じる
- ・草花だけでなく、空色で空も表現している?
- ・天井に絵が写り込んでさらに上へと続いているように見える
- ・壁・椅子・集まる人を含めた空間すべてが作品になっている

3



pic.4

紹介フレーズ  
3色の光が包む家

### 《カラー・アクティビティ・ハウス》を観察して気づいたこと

- ・3つの色、3色の光、3つの半円、高さ約3m
- ・扇風機、台風、ケーキのバラみたい
- ・迷路、三叉路、ラウンドアバウトに似ている
- ・日中はカラフルな色が「パッと」目に入る
- ・日中はランダムで夜に玉が光ると全く違った印象、風も音も入ってこない。なるほど、家(ハウスの)中みたい

4

### 「まるびりサーチ」のおもしろさとは?

好きも嫌いも、無言もOK。  
オリジナルの感じ方で作品を見ることで、  
会話が深まり作品も深まる時間です。

まとめ

Credit  
pic.2 | ©Anish KAPOOR  
pic.3 | ©Michael LIN  
撮影:中道淳/ナカサアンドパートナーズ  
pic.4 | ©2010 Olafur Eliasson | 撮影:木奥恵三  
イラスト | 岡田優太



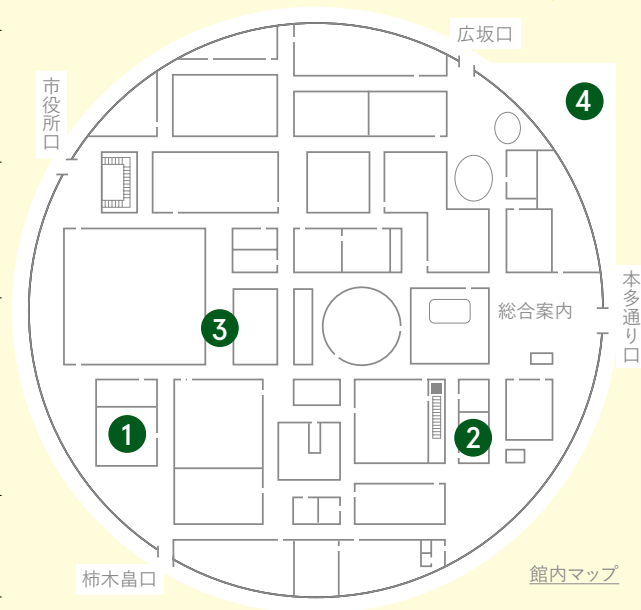
みんなも  
やってみてね

## まるびりサーチ

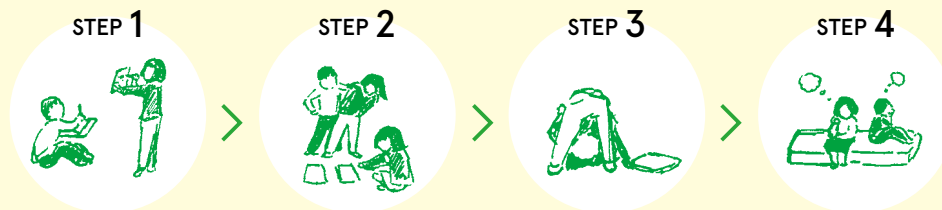
みらいカフェメンバーが恒久展示作品をグループで鑑賞する

### リサーチした作品

- 1 ジェームズ・タレル  
《ブルー・プラネット・スカイ》  
(タレルの部屋)
- 2 アニッシュ・カプーア  
《L'Origine du monde》  
(カプーアの部屋)
- 3 マイケル・リン  
《市民ギャラリー》  
2004.10.09-2005.03.21  
(マイケル・リンの壁)  
・2018年3月現在展示していません
- 4 オラファー・エリアソン  
《カラー・アクティビティ・ハウス》



### どうやったの?



作品を鑑賞して、気づいたことを各自で書き出す。

気づいたことについて共有する。

みんなの気づきをふまえ、再度作品を観察する。

集合して意見をまとめ、紹介フレーズを考える。

## 玉ちゃんと遊ぼう

「コレクション展1 PLAY」と共に

牛島均  
《ころがるさきの玉 ころがる玉のさき》  
2008 金沢21世紀美術館蔵

活動日時:  
2017/5/28, 6/3, 6/9, 7/8, 7/16



光庭ではハンモックのように楽しめます



廊下をころころ転がします



外の広場では子どもの遊び場に

## どんな活動?

「コレクション展1 PLAY」に出品された牛島均さんの作品。直径2.2mの黄色い玉はコロコロと転がり、ぱかっと半分や4分の1に割ることができます。「玉ちゃん」とあだ名をつけ、転がる先で人々の集う場所を作りました。展示会名のPLAYしながら、キュレーターとメンバーと来館者とで玉ちゃんと遊びます。

## メンバーの感想

黄色くてまるっとしたたまちゃんといっぱい遊んだ夏はとても楽しかったです。中に入ってぶら下がってみたり、子どもたちと一緒に美術館の周りを転がしてみたり。美術作品というより、昔公園にあったぐるぐる回転する遊具みたいで、童心に帰った気がしました。(今井攻)

## 大茶会とミーティング

ワクワクを考える作戦会議



キッズスタジオでの大茶会の様子



サポートスタッフ室でのミーティング

## どんな活動?

「大茶会」と呼ばれる毎月の定例会や、メンバーがそれぞれに開くミーティングにより活動が進みます。大茶会はキッズスタジオやメディアラボで行われ、話し合いやワークショップを行います。メンバーは美術館の「サポートスタッフ室」を予約して使用することができ、自由にミーティングを開けます。

## みらいカフェ メンバーが 来館者たちと 過ごした時間

「こんな美術館になるといいな」と未来を考え、ワクワク、ドキドキする時間を作るまるびいみらいカフェ。「大茶会」と呼ばれる定例会、メンバーでの話し合いやトライアルなどを重ねて、2017年度に実現した活動を紹介します。

ACTIVITIES  
WITH  
VISITORS  
←←←

オトナスタジオVol.9

## うら坂 出逢いさんぽ

活動日時:  
2017/4/15



美術館の敷地にも実は坂が!



犀川から少しくと蛤坂に



名付けて坂道メジャー

### どんな活動?

美術館の周りを散策し、新しい発見から美術館や金沢を再認識するプログラム。今回は「坂」に着目しました。フラットに見える美術館にも坂はあるのか?とお手製の傾斜測定器を片手に美術館の敷地を探検した後は、街なかの坂を巡りました。無名の坂に名前をつけると一気に愛着がわきます。

### メンバーの感想

美術館を起点に、坂道にスポットを当ててうら道を通って寺町まで歩きました。参加者の方たちとお話をしながら歩くと、知っているはずの金沢の町並みも新鮮に見えました。最後に、途中で撮った集合写真を記念にお配りすると、喜んでもらえました。(村井淑子)

オトナスタジオVol.8

## オトナゲナイ スタジオ

ねんど?ねんど。ねんど!

活動日時:2017/3/25



実はお椀の形は...?



素足でねんどの感触を味わいます



たたいて伸ばす!

### どんな活動?

大人も気軽にモノに触れたり表現しよう!とメンバーが企画する「オトナスタジオ」シリーズ。無邪気に創作活動をできたらとメンバーが陶芸作家の中村基克先生をお招きし、実現しました。手や足など全身を使って粘土とたわむれた後、体のある部分を使って型を取り、お椀を作りました。

### メンバーの感想

ねんどを丸めたりこねたり、踏み潰したり投げつけたり。初対面の方ばかりなのに、気さくに話し、楽しみながら久々のねんど遊びをしました。そして最後には作った作品を眺めながら、みんなでお茶会をしたのが良い思い出です。(当時は参加者でした!) (西野加央瑠)

オトナスタジオVol.11

## 出会って ビブリア

一目惚れの書評大会

活動日時:  
2018/1/14



アートライブラリーでは参加者それぞれが本を選びます



選んだ理由を聞くと、その本にも興味が湧きます



最後は他の人の選んだ本を手にとり歓談の場

### どんな活動?

本が好きなメンバーが考えた、アートライブラリーの魅力を知るきっかけとなるプログラム。参加者は美術や建築、デザインやファッションなど国内外の資料をそろえるアートライブラリーで「一目惚れの」に本を選んだ後、互いに選んだ一冊を紹介することで新しい本との出会いの時間が生まれます。

### メンバーの感想

「もっとアートライブラリーのことを知ってもらいたい」という思いからこのイベントを企画しました。いきなりの発表に緊張していた参加者の方も、気に入った本について話すうちに空気がほぐれていきました。このイベントで初めてアートライブラリーに入った方から「また来たい」と言ってくれたのが特に嬉しかったです。(八十嶋努)

オトナスタジオVol.10

## トワイライト トーク inまるびい

ちょっとおしゃれな  
新しい出会い

活動日時:  
2017/11/3



いつも見ているこの椅子も、夜だと少し違う雰囲気



館内で見つけた光景について話します



この時はレクチャーホールの裏にも作品が!  
〔コレクション展2死なない命〕より  
粟津潔《H<sup>2</sup>O EARTHMAN》1993 金沢21世紀美術館蔵

### どんな活動?

夕暮れ時の落ち着いた館内を、グループでゆったりと巡ります。建築や恒久展示作品、館内の素敵なデザインの椅子を味わい、おしゃべりやお気に入りのスポットの撮影などを楽しんだ後は、館内のカフェレストランfusion21で親睦を深めました。

### メンバーの感想

美術館の夕暮れ、黄昏の時間。参加者とカフェメンバーの笑い声、しゃべり声、そして笑顔であふれ、とても温かく楽しい時間になりました。居心地のいい中でグラスを傾けながらのおしゃべりはワルツの音色みたいで見守り係だったけど思わずその中に。みらいカフェで一番嬉しい一時でした。(小野純子)

## まるびいの遊び方

大学生と作るなぞなぞツアー

活動日時:2017/7/17



みらい畑を紹介、観察してみます



最後にどんなものを見て来たか、ふりかえります

### どんな活動?

金沢大学の有志の学生によるグループ「アート田ツナ子」が、大学の新生に美術館は楽しい所だと知ってもらいたいとメンバーとともに企画。作品をじっくり見られるような、なぞなぞを考え、当日はその答えを参加者と考えながら恒久展示作品を中心にめぐり、感想を共有しました。



## ラジオ体操

日曜の朝はまるびいで

活動日時:2017/5/21—10/22までの毎週日曜6:30—



まさに「公園のような美術館」です

### どんな活動?

敷居を低く、間口は広く様々な方に美術館を身近に触れるきっかけになればとラジオ体操を発案しました。10月までの毎週日曜の朝6時半から行いました。体を動かした後は「まるびい みらい畑」のお世話をして植物の成長に季節を感じることも。地元の方も、観光の方も、老若男女が参加できる気軽さがポイントです。

### メンバーの感想

みらいカフェが何かもわからない頃、アート田ツナ子とのコラボ企画を行いました。しかも、みらいカフェとツナ子、美術館、参加者の三者を繋ぐ企画。和やかな雰囲気を作るために何度も企画出しをしました。不思議と大変だと思ったことは一度もなく、むしろ企画が具体的になる様子がワクワクしました。(鈴木彩可)

### メンバーの感想

可愛い5歳と3歳の兄妹と出会った日は、お兄ちゃんのお誕生日。即席でみらい畑のお花で花束を作りプレゼント! 犬の散歩している方がいつも足をとめてくれたり、旅行者の方など色々な方達と出会えて良かった!(荒川由紀子)

オープンまるびい2017 朝も夜も美術館

## ちょっとよってかんげ「みらいカフェ」

市民美術の日のスペシャルコーナー

活動日時: 2017/10/14



1

3



3.ラジオ体操しませんか?:毎週日曜のラジオ体操をこの日は昼間に行いました

4.チョコキョキ ハリハリ ならべ歌:期限切れのフライヤーから文字を抜いて、短歌を作って遊びました

5.まるびい百景:まるびいでのちよつと素敵な過ごし方を紹介!

## どんな活動?

「市民美術の日」に合わせて美術館全体でワークショップ、美術館スタッフによる特別企画など、いつも以上に開かれた美術館となる「オープンまるびい2017 朝も夜も美術館」。まるびいみらいカフェは交流ゾーンの情報ラウンジを拠点に、来館者とともに美術館をさらに楽しめるような企画を行いました。



2

\*金沢市民が美術館主催の展覧会を無料で鑑賞できる日です。無料鑑賞には運転免許証等の本人確認書類が必要です。

1.まるびい案内inオープンまるびい:美術館や作品についておしゃべりしながら見てまわるプログラム

2.ぐるっとまわって あなたもフォトグラファー:＃ぐるふोटというハッシュタグをつけた写真をディスプレイ

5



## メンバーの感想

通りかかる来館者の方たちに声掛けて参加してもらいました。使うのは、フライヤー、ハサミと糊。柔軟な発想でフライヤーとにらめっこ。戸惑い顔から、いきいきした顔に変化していく人たちの傍で、私も楽しかったです。(村井淑子)

## メンバーの感想

美術館を訪れた人の「何だろう?」の疑問に寄りそい、会話を交わすことで美術館や美術館の作品の魅力を来館者の方と一緒に発見し楽しむ時間を過ごせたら素敵だなとの想いで「まるびい案内inオープンまるびい」を企画しました。「まるびい百景」のカードも大活躍!(大辻尚美)

## ちょっとカフェ

まるびいでしゃべろう

活動日時:2017/11/11—第2土曜の午前中



お天気のいい日は広場でゆったり

## どんな活動?

来館者の方や美術館の他のプログラムで活動する方、通りがかるスタッフなど様々な人が気軽に会話ができるような場を開きました。簡単な工作をしながらみらい畑で取れた朝顔の種をおすそわけしたり、金沢市民が無料でコレクション展を見られる「美術奨励の日」をご案内したり、コミュニケーションが生まれます。

## メンバーの感想

お客さまと、美術館に携わる人たちが気軽に交流できる場があったら…☆と始まったこの企画。小学生からご年輩の方まで、全国からのお客さまがたくさん立ち寄ってくださって、会話と笑顔が生まれる場所になっていました。人との出会いも、美術館のたのしみのひとつになったら素敵だな…と思っています。(齊田かおり)

## まるびい案内

金沢21世紀美術館へようこそ!

活動日時:祝日や第2土曜を中心に毎月2日程度



総合案内の前で、お客様の質問に答えます

## どんな活動?

美術館が好きなメンバーだからこそ、もっと来館者とともに美術館の魅力を見つけたい、笑顔と笑顔の出会いが生まれるといいなど始まった活動。展示会のチケットはどこで買えるの? 本で見たあの作品はどこだろう? そんな来館者の声をメンバーが聞きながら、美術館での時間を楽めるよう、案内しています。

## メンバーの感想

自分の好きな作品のことをお伝えして「お時間があったら観てくださいね」とお話した方が、帰り際に「勤めてもらって本当に良かった。有難う」と言いに来て下さった時は嬉しかった!(荒川由紀子)  
まるびい案内で一番ドキドキするのが外国のお客様の対応です。わからないなりに「ドゥーニーディングリッシュガイド?」と英語版の館内マップを差し出し「アリガト」と笑顔が返ってくると嬉しい気持ちになります。(八十嶋努)



すごく勉強になった。

それまでは自分のことを作り手としか  
考えていなかったのだけど、鑑賞者として  
美術館で過ごすみて、作品をどのように  
作ったら、人にどのように伝わるのかとい  
ことを考えることができて非常に勉強に  
なった。美術の専門知識を持っていない人  
たちの前に現代美術が現れたときに、ど  
のような反応をするのかを見ることがで  
きてすごく面白い経験になったかな。

アートはアートの専門家が見るような構  
造が自然とできてしまっているのだけど、  
それをやっている限りアートファンは増え  
ない。日本には1万人しか現代アートファ  
ンはいないと言われているが、瀬戸芸や21  
美にだって圧倒的な数の来場者が訪れてい  
る。そういう人たちに「また来たい。現代  
美術は面白かった」と思ってもらいたい。そうす  
れば、うまくいけばアートファンが増え、そ  
の後にひよっとしたらアートを買ってくれる  
人も現れるかもしれない。僕は、作り手で  
あると同時に、アートを理解してもらいた  
めの発信もしたいと思っています。

こうした経験を通じて、作品制作におい  
て、あまり個人の個性を前面に押し出さ  
なくなった。「俺が俺が」という作品作り  
よりも、見る人がもっと気持ちよくなる方  
法を探したり、素材を見つけたり、鑑賞者  
の気持ちや、その土地の要素からすくい出  
そうというように変わったと思う。

### 日本の美術教育に思うこと

.....

僕が日本の美術教育で一番駄目だと  
思っているのは鑑賞教育が足りないこと。  
自分が作ることで満足する人は多いのだ  
けど、美術館に行っても作品の見方が分  
からない。「これは有名な人の作品だから  
良いに違いない」と他人の評価を鵜呑み  
にしてきたのではないかと思います。自分  
の眼で判断するには「見る」ということ  
をもっととっさと学ばなくてはいけない。た  
くさん見るからこそ、様々な価値観が入っ  
てくるし、その中で批評が生まれてくれれば  
いい。本当に好きならば、もっと勉強した  
いという気持ちになってほしい。そして、自

分が作り手であれば、作り手である前に  
アートファンであってほしい。アートファンで  
ないと、基準ができて、自分が作ったもの  
がどのぐらいのクオリティなのか、レベルな  
のか、判断できないはずだ。

### 作品スタイルと伝えたいこと

.....

僕の作品は、一言で言うなれば、小さな  
断片が集まって大きな世界や画面を作っ  
ています。なぜかといえば、僕が世界をそ  
ういう風に見ているからです。小さな一つ  
のピースは一つの社会だと僕は捉えていて。  
社会の一番小さな単位はたぶん家族なん  
です。隣の家族とうちの家族は微妙に  
ルールが違うでしょ。そのつみ重ねが文化  
になっていく。それが面白い。アートの役割  
は、僕は多様性だと思っています。色々な  
考え方の人がいて、色々な意見があってよ  
い。アートはそれに気がつくためのきっかけ  
になる。



左図——瀬戸内国際芸術祭2016 本島「咸臨の家」(外観)  
撮影・奥祐司 | Yuji Oku



左右図——アトリエ内の様子

## 奥能登芸術祭の参加について

奥能登国際芸術祭が石川県で開催されることを知って、「参加しなければならぬ」と思ったんですよ。地元だし、使命感みたいなものもあったかな。自分の生まれ育った石川県をもっとアートの活気づかせたいと思っていた。

金沢のたくさんの人たちに珠洲に行つてほしいなと思ったのね。能登の自然や文化を体感しながら、たどり着いた先には現代美術が地域の資産を活用して作られている構図があったから、来てくれればみんな絶対に面白いと言ってくれるだろうな、と思いました。

もちろん、珠洲の人を楽しませたいとも考えていました。制作過程を見せられているうちに、最初は遠くから見ている人が話しかけてきたりするのが非常に楽しい。芸術祭では、地元のおじいちゃん、おばあちゃんが自然発生的に作品の話や地元の自慢話をガイドしてくれて。何だか皆さん、それが誇らしげで楽しそうでした。

芸術祭には、地元を仲良くさせる魔法のようなものがあるのかなと最近感じています。

## 未来に目指すこと

僕のやりたいことは基本的には絵なんです。最初は手に持てるぐらいの四角いものが絵だと思っていたけれども、今は、建物空間全体を絵画空間で満たせば絵の中に入っていくような体験ができるのではないかと思っていて。これは新しい試みなんじゃないかな。

こうしたことを日本国内だけでなく、海外の全然違った文化の中で展開していきたい。今までは芸術祭が自分の活躍のフィールドだったから、これからは美術館でもやらないといけないと思っています。一番の目標はベネチアビエンナーレに参加すること、そして21美の屋外に僕の作品が置かれることかな。



上図——奥能登国際芸術祭 珠洲 2017「青い舟小屋」  
撮影: 鶴見哲也 | Tetsuya Tsurumi

## 眞壁陸二 | Rikuji Makabe

現代美術家

.....

1971年金沢市生まれ。

多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。

卒業後 予備校講師—多摩美術大学油画科助手を経て

神奈川県茅ヶ崎市で実験的現代美術スタジオ

ebakam art studio設立

絵画の歴史を西洋—東洋—中東と分析し

現代絵画を研究する。

2010年に瀬戸内国際芸術祭に

参加した事をきっかけに日本各地の芸術祭に参加。

国内外の公共施設、ホテル、美術館など

コミッションワークを手がける。

設置する場所のリサーチに基づき

その土地に最も相応しいと思われる

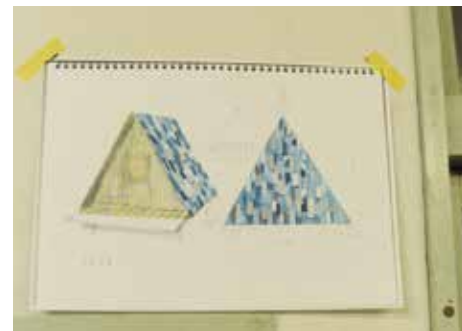
サイトスペシフィックな作品を作っている。

2011年から金沢に活動の拠点を戻し制作をおこなっている。

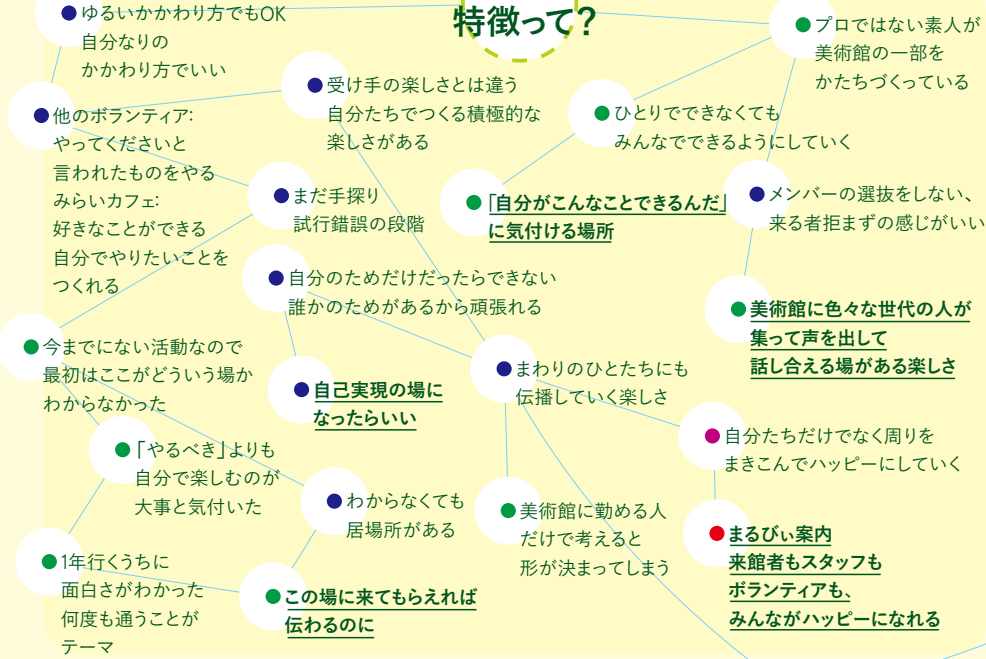
2017年 奥能登国際芸術祭スズには「青い舟小屋」で参加。



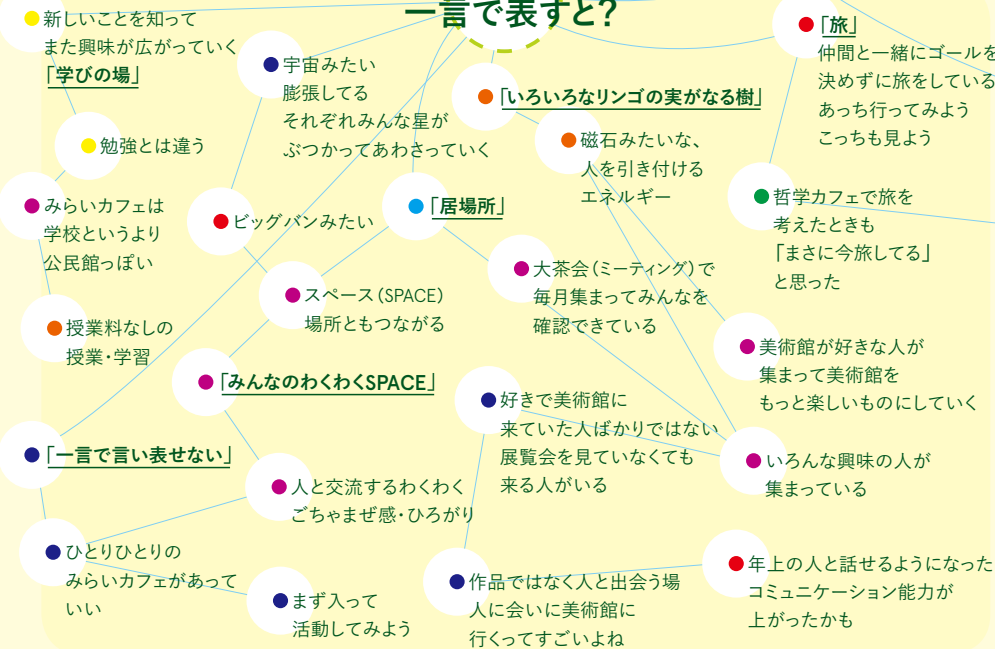
左右図——アトリエ内の様子



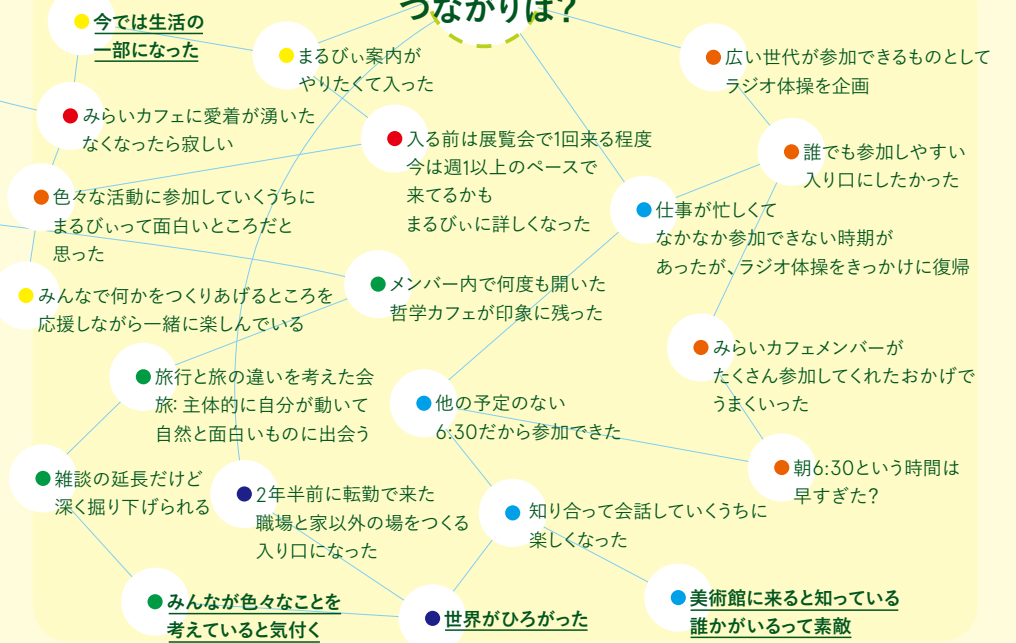
## みらいカフェの特徴って？



## みらいカフェを一言で表すと？



## みらいカフェと「私」のつながりは？



## みらいカフェって どんなところ？



「みらいカフェ」の活動と魅力についてわかりやすく伝えられないか、みんなでテーマを深く掘り下げる「哲学カフェ」の時間に考えてみました。

- 参加者:
- 荒川
  - 今井
  - 大辻
  - 小川
  - 斉田
  - 神保
  - 八十嶋

●—● は思考の流れを表しています



みらいカフェだより #3

Newsletter of Marubi Mirai Cafe

—  
2017年度

まるびいみらいカフェ

メンバー

阿小毛淳子	楠彩	畑中早耶香
荒川由紀子	五木田まきは	姫野知佳
伊藤僚紀	齊田かおり	細川令子
今井攻	佐藤優子	本多瑠美
大塚和徳	柴田実千代	前田真季
大辻尚美	神保玲子	牧嶋平
岡田優太	鈴木彩可	村井淑子
小野純子	千田直子	八十嶋努
小川裕生	高岡幸子	山下書子
笠井義孝	直川泰久	山田邦彦
川北重信	俵政昭	米井麻理子
加門綾子	長江健太	涌波理絵
川尻紗佑佳	中戸麻由	
川又遼	西野加央瑠	

—  
スタッフ(金沢21世紀美術館):

木村健

森絵里花(編集担当)

渡辺秀亮

片石憂衣

—  
デザイン:

板坂晃幸/Lansdowne

—  
印刷会社:

株式会社山越

—  
発行:

金沢21世紀美術館

[(公財)金沢芸術創造財団]

〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

Tel: 076-220-2800

<https://www.kanazawa21.jp/>

—  
2018年3月発行

ISBN: 978-4-903205-72-4